

# 附属組織と附属施設

# ヒューマン・コミュニティ創成研究センター

## 大学と地域社会の架け橋となり、人間の発達を支援するコミュニティ創成を目指します

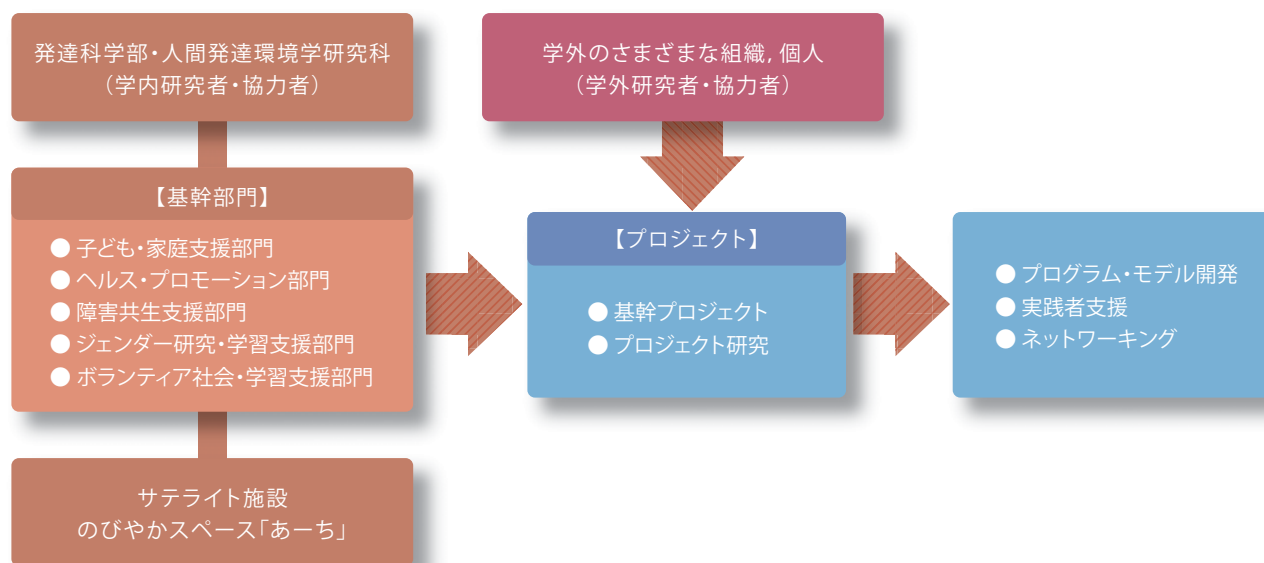
ヒューマン・コミュニティ創成研究センター(以下、HCセンター)とは、人間発達環境学研究科内の発達支援インスティテュートに所属する機関で、実践的な研究を推進するためのセンターです。人間発達環境学研究科・発達科学部で蓄積されてきた研究成果と、地域社会の実践活動とを融合させながら、現場に即した実践的研究活動を行っています。人間の発達とそれを支える活動を行っている地域組織、NPO、NGO、企業、行政、学校等の人々と連携しながら、研究・実践を深め、人間らしさにあふれたコミュニティの創成を目指しています。2015年現在、5つの研究部門があり、4名の専任教員を中心に運営しています。5つの部門ではさまざまなプロジェクト研究が展開されています。各プロジェクトは、リーダーである専任教員と学内研究員および学外の研究員・協力が担っています。



### アクション・リサーチ ～地域や社会への参画を通して研究する

HCセンターの英語名は、「Action Research Center for Human and Community Development」です。アクション・リサーチとは、地域や社会の実践への参画を通じての研究＝「行動を通しての研究」と言える手法です。HCセンターは、このアクション・リサーチの手法により、研究者と実践者のネットワークづくりも進めています。

### ヒューマン・コミュニティ創成研究センターの組織と役割



## 基幹部門

### 子ども・家庭支援部門

#### 「子育てコミュニティ」の形成を目指します

家庭および家族的機能を有する諸施設の養育活動を支援することを通して、周産期から青年までの子どもとその家族・養育者の発達を促進するための実践的研究を行います。また、「子育てコミュニティ」の形成を目指します。

- 地域リソースとの連携  
子育て支援をきっかけにした共生のまちづくりを目指すのびやかスペース「あーち」は学外にあるサテライト施設で、大学と地域を結ぶ架け橋の意味から「あーち」と名付けられました。ここでは地域の様々な組織・機関等と連携して、地域住民に対する多様なレベルの子育て支援サービスを提供しています。
- 地域の人材育成について  
小・中・高校生を対象として「赤ちゃんふれあい体験学習」を実施し、次世代を担う子どもたちに「命の尊厳や発達の素晴らしさを実感し、親になることを考える」機会を提供しています。また、各地域で子育て支援にボランティアとしてかかわりたいと希望するシニア世代を対象とした講座、保育士を対象とした講座、専門職やNPOなどの支援者を対象とした講座を開催しています。



### ジェンダー研究・学習支援部門

#### 地域、市民社会と連携してジェンダー問題に取り組みます

市民社会の形成のための支援を行うことが大学の重要な役割の一つであると考えて、ジェンダー問題について、NPOや企業、個人と共同して学習プログラムを開発し、啓蒙活動に取り組んでいます。これを達成するため、地域で活躍・活動している学外の方に部門研究員として多数参加して頂いています。

- セクシュアル・ハラスメント防止のための教師用研修プログラム  
「自分のこと」として考えるためのワークショップ型プログラムを開発し、ブックレットを刊行するなど、啓蒙活動に取り組んでいます。
- 市民と行政のパートナーシップの検証  
「男女共同参画施策」に関わった市民の活動を、当事者と協働しつつ、行政とともに市民が行う協働とは何かを検証しています。
- 子育て中のお母さんのためのリフレッシュ講座  
市民によって行われているワークショップに光を当て、その「市民力」を広げ育てるための取り組みを積極的に支援しています。

### ヘルス・プロモーション部門

#### 健康で有意義な人生を送るために必要なライフスキルの育成を目指します

「環境づくり」と「健康教育」について研究を行っています。特に、青少年期に焦点を当てて、喫煙、飲酒、薬物乱用をはじめとする健康を損なう恐れの高い行動(危険行動)を避け、積極的に健康を増進する主体的行動を支援する健康教育プログラムの開発を、教師などの実践者と連携しながら進めています。

- ライフスキル教育プログラムの開発  
喫煙、飲酒、薬物乱用、早期の性行動、不必要で危険なダイエットなどの危険行動を防止するために、ライフスキルやメディアリテラシーなどの心理社会的能力の形成を主な内容とするプログラムを開発しています。また、ライフスキル教育を、いじめ防止や非行防止などの問題にも適用する試みにも着手しています。
- ライフスキル教育の普及  
開発したプログラムを普及するために教育研究会を組織・運営し、ネットワークを構築するとともに、ライフスキル教育及び健康教育の実践者を対象としたワークショップを、各種団体などと協働して、毎年全国各地で開催しています。

### 障害共生支援部門

#### 社会的排除のない共生社会を目指すプログラムを開発します

社会的排除のない共生社会とはどのようなものか、また、そのような共生社会に少しでも近づくためにはどのような実践が必要なのか、という課題に取り組んでいます。

- のびやかスペース「あーち」  
さまざまな人たちの個々の日常的な課題を相互に支えあうインフォーマルな関係の形成過程に着目した研究をしています。
- 「みのり」プロジェクト  
障害のある人たちが学生と学びあう実習機会を学内に設け、その参加者の変容過程に着目した研究をしています。
- 「つむぎ」プロジェクト  
障害のない子どもたちと障害のある子どもたちが学童保育で共に育つことで形成される共生関係の研究をしています。
- 世界的動向との呼応  
障害を社会的排除の問題として捉えようとする世界的動向と呼応して、韓国ナザレ大学と連携しつつ、障害の問題に取り組む新しい実践的研究の分野や方法を模索しています。

### ボランティア社会・学習支援部門

#### 人間が主体的に社会にかかわるボランティア社会の創造を目指します

社会参加・参画のひとつの方法としてのボランティア活動を、人間形成・コミュニティ形成および学習の場として考え、そのあり方や支援方法などについて、学外団体と連携しながら実践・検証しています。

- ESDボランティアプログラムの開発  
ESD (Education for Sustainable Development) プログラム・モデル開発として、「ESDボランティア・ぼらぼん」事業を実施しています。高校生・大学生が主役の事業です。
- 大船渡支援ESDプロジェクト  
東日本大震災の被災地、岩手県大船渡市の小地域再生支援の方法論を研究しています。福祉・人権・環境教育と、地域政治・雇用促進などを総合化する社会教育の役割が主題です。
- ESD推進拠点の創造  
国連大学から認証されている「RCE兵庫-神戸」(Regional Centres of Expertise: ESD地域推進拠点)のマネジメントを行っており、ESDの実質化を目的に、セミナーやシンポジウムを企画運営しています。



サテライト施設 のびやかスペース「あーち」

「あーち」は、「子育て支援を契機にした共生のまちづくり」を目的にした施設です。

「あーち」は、子育て支援をきっかけにした共生のまちづくりを目指す施設です。この施設の目的は、地域と大学の連携によって、地域の数あるニーズに自発的に対応することができる地域の活力を向上させていくことです。住民の間に子育て支援を契機としたネットワークの形成を促進し、そのネットワークが相互支援関係を形成するよう働きかけます。この施設は、ヒューマン・コミュニティ創成研究センターの「子ども・家庭支援部門」及び「障害共生部門」が中心になって運営しています。

「あーち」では、遊び、アート、音楽などを通して、子どもを中心にさまざまな人たちが集うプログラムが数多く実施されています。それらのプログラムは、地域の人たちが自発的につくりあげていくものもあれば、学生たちが知恵と力を寄せ集めて実施しているものもあります。日常的な実践を通して、人と人とを結びつけ、新しい価値を創造し、ひとりひとりが人間としての輝きを取り戻すためのコミュニティづくりを目指しているのです。

「あーち」は、人々が相互に関わりあう活動の拠点であり、また学生の教育、実践モデルづくり、実践的研究の現場でもあります。その成果を評価され、1997年「ひょうごユニバーサル社会づくり賞」、2009年に「神戸市民福祉賞」、2010年に「神戸大学学長表彰」をそれぞれ受賞しました。



大学院 人間発達環境学研究科

発達支援インスティテュート

心理教育相談室

現代のようにストレスの多い時代では、何も悩まずに生きていくのは難しいものです。心理教育相談室では、さまざまな悩みを持っている方に、臨床心理学の専門の立場から相談に応じています。子どもの言葉や発達が遅れている、落ち着きがない、友達と遊べない、学校へ行きたがらない、子どもが障害を持っているなど、子どもに関する悩みや、対人関係がうまくいかない、なにもやる気が起こらない、食事がうまくとれない、自分に自信がない、家族や夫婦のことで悩んでいる、自分についてもっと知りたいなどの悩みに対する相談を受けるとともに、カウンセリング、プレイセラピー（遊戯療法）、心理テストなどを通して、援助を行っています。現在、阪神間において、心理相談外来の重要な一拠点として乳幼児から高齢者まで、幅広い層の方々に利用されています。必要に応じて医療機関との連携や他機関への紹介も行っています。

また、この相談室は大学院・臨床心理学コースの臨床心理士養成の実習機関を兼ねています。心の問題が多様化している近年、相談機関や専門家のさらなる質の向上が求められていますが、専門家養成には日々の相談活動の積み重ねが不可欠です。今後も地域社会の人々に気軽に安心して利用していただける相談室であるよう、臨床心理士の資格をもつ教員と、教員の指導のもと臨床心理学を専攻する大学院生が実践・研究両面にわたり研鑽を重ねています。



大学院 人間発達環境学研究科

発達支援インスティテュート

サイエンスショップ

「サイエンスショップ」とは、市民社会の科学技術に関わる課題について、大学やNPOなど専門的知識をもつ機関が、市民の相談を受けて必要な情報を提供したり、調査・研究の実施または支援をしたりする組織のことで、1970年代にオランダで誕生しました。

現代社会は高度科学技術社会あるいは知識基盤社会などよばれ、環境、医療、安全などの課題を解決しようとするとき、科学技術等に関わるさまざまな知識が必要となります。しかしその一方で、科学技術の高度化・専門化が進み、理解が難しくなり、疎遠なものと感じる人も多いことでしょう。神戸大学のサイエンスショップは、こうした背景をふまえて2007年に創設されました。

神戸は大都市であるとともに、六甲山・大阪湾など自然環境にも恵まれています。また、阪神淡路大震災を契機として多様な市民活動が芽生え成長してきた地域でもあります。このような神戸の特徴を活かして、ヨーロッパに生まれ育ったサイエンスショップを参考にしつつも、地域社会や日本の文化的風土に融和した独自のあり方、「神戸型サイエンスショップ」を創造することを目指しています。地域社会における広い意味の科学教育や、文化としての科学を地域に根づかせ、「持続可能な社会づくり」を目指して、コミュニティを豊かにしていくような科学のあり方を探ってゆきます。



主な取り組みとして、以下のような活動を進めています。

●サイエンスカフェの開催と支援

サイエンスカフェは、科学者などの専門家と一般の市民が飲み物を片手に気軽に科学などの話題について自由に語り合うコミュニケーションの場です。神戸地域でのサイエンスカフェの開催の他、西宮、姫路、伊丹、淡路、三田、豊岡、篠山、明石などさまざまな地域で、市民グループなどのサイエンスカフェの企画・運営などを支援しています。

●市民のさまざまな科学活動の支援

小・中学生から成人まで、余暇を使って科学の研究や学びを楽しみたいという人々の活動を支援するとともに、活動紹介や交流の場を提供します。

●高等学校等と連携した科学教育の普及・活性化支援

学校での課題研究を含む教育プログラムへの支援などを行っています。

●神戸大学学生の科学に関わる諸活動の支援

上記のさまざまな取り組みへの参加や、主体的研究活動などを含めて、学生が企画・実施する諸活動を支援し、そのための環境を提供しています。これらを通じて、学生のみなさんの課題を発見・解決する能力、コミュニケーション能力、プロジェクトを企画・運営・実施する能力などを高めることも目指します。





# キャリア形成支援

## 未来への一步を発達科学部から

発達科学部では「発達 (development)」「異なるものの包容」「持続可能」という言葉をよく考えますが、単に問題を解決し発展を遂げることを目標にするのではなく、課題や問題を解決することで持続的な環境を目指すことが、「ハタツツ的」考えです。

発達科学部のキャリア支援は、就職活動支援ではありません。就職活動をして、どこかの企業や組織から内定や合格を得ることをゴールにしても、未来への一步を踏み出すことにはなりません。ゴールの先を考えることがなければ、自分の未来を切り開くことはできないからです。私たちは、一人ひとりの生き方、生きる方向性を考え、行動することをキャリア形成と捉えています。何が起きるか分からない、また何が起きてもおかしくない現代の社会では、生涯において確実に安心できる道を見つけることが難しくなっています。これからの社会で生きていくためには、自分がどう生きたいかについて立ち止まって考えることが重要です。そして、色々な体験を自分自身の経験として意味付け、目の前に広がる未来へのアプローチを考えること、考え抜いた一步を踏み出す勇気、それらが自分自身のキャリアを形成していくこととなります。

発達科学部では、今の自分と未来との間に発達科学部での経験を位置付け、さまざまな体験が可能です。未来の自分に向かうため、積極的に「ハタツツ体験」を試してみましょう。



OB・OGセミナー「ビール会社で働く」(2012年2月開催)

## キャリア作成スケジュール

	目標	アドバイス
1年生	自己探索	新しい環境に早く慣れて、興味のあることにどんどんチャレンジしてみましょう。自分の未来への可能性を広げておく時期です。勉強・部活動・ボランティア活動・アルバイトなどバランスを取りながら大学生活を楽しみ、充実感を得ておきましょう。1年生後期のコース選択、2、3年生からのゼミ(研究室)選択は、進路選択の一つと考えて、自分の適性・興味・関心をふまえて決定しましょう。また将来に向けてインターンシップやキャリアセミナーなどに参加し、社会で働くイメージを身近にしておくことも大切です。
2年生	挑戦と達成	
3年生	進路の模索と選択	就職活動の準備から本番へ向かう時期です。今までの自分を振り返り、興味・関心・能力・価値観などを明確にしておく必要があります。全学部向け、文系・理系向け、発達科学部独自のものなど就職活動をサポートするためのガイダンスやセミナーが多く実施されます。情報収集が大切なポイントですから、自分が得られる支援・サポートを把握し、活用していきましょう。
4年生	進路決定	次第に進路が決定しますが、決定の時期は個人差があります。焦らず取り組む力が必要です。就職活動のゴールは、内定ではありません。自分自身が社会の中で活躍出来ることです。どうすれば自分を社会で活かすことが出来るかを考え、社会と自分をつなぐ重要な時期です。
博士課程前期1年生	研究スタイルの構築	博士課程前期の学生にとって、この時期の就職活動は、修士論文作成のための研究との両立が大変です。しっかりスケジュールを把握し、計画的に進めましょう。
博士課程前期2年生	研究を踏まえた進路選択	進路が決定すると、残りの大学生活を研究に集中できます。学生生活の集大成として研究に取り組むことになるでしょう。また博士課程後期への進路を選択する学生は、後期課程修了後の自分の進路について考えておく必要があります。
博士課程後期1年生	研究スタイルの確立	大学院の博士課程後期は、将来像を明確にした上で、選択する道です。研究者、教育者など自分の研究スタイルや具体的な活動を模索しながら研究を進めることになります。社会からは、学部卒業生、修士修了生以上に実践力を求められることになります。社会人としての基本的な能力(社会人基礎力)やビジネスマナーなどをしっかり身につけておきましょう。また、自分の進路については、より積極的な行動が必要です。自分の目指す方向に関係する活動には自ら関わっていきましょう。
博士課程後期2年生	研究を活かした進路選択	
博士課程後期3年生	進路決定	

個々の個性に対応した相談

個別相談

模擬面接シート添削  
インターンシップ

## キャリアサポートセンター

### 学生の個性に対応したキャリア形成をサポート

発達科学部キャリアサポートセンターは、A棟1階D-Roomの西側にあり、そこでキャリア形成支援を行っています。「自分の人生をどう生きるか」を考えるプロセスそのものをキャリア形成と捉え、新入生から大学院生にいたるすべての学生を対象として、就職活動の支援だけでなく、現在から将来へ、学生自らが勇気を持って一步を踏み出すサポートを行っています。

キャリアサポートセンターでは、キャリア形成や就職に関する各種資料を閲覧できます。資料は、キャリアに関する書籍、教員採用試験に関する過去問題や資料、求人票、公務員試験に関する資料、就職活動に関する書籍などを揃えています。また、キャリアに関するセミナー、ガイダンスでは、企業

説明会や就職活動トレーニングなど就職活動に役立つ内容だけではなく、キャリアセミナーやOB・OGセミナーなど長く将来にわたって有益な内容のものを検討し実施しています。キャリア形成に関する個人的な悩みや疑問、就職活動におけるエントリーシート添削・模擬面接には、専任のキャリアアドバイザー(CDA)が親身に対応しています。ここでは、学生が自分自身について深く考える時間が持てます。

一人ひとりの進路・職業選択に関連したきめ細かい支援を提供し、発達科学部の学生の個性に対応したキャリア形成を強力にサポートしています。

### 啖啄の機を迎えるために

田中 美恵 キャリアアドバイザー

啖啄の機とは、雛がかえろうとするときのことです。雛が内からつつくの「啖」、母鳥が外からつつくの「啄」といいます。禅においては、師家と修行者との呼吸がぴったり合うこと、機が熟して弟子が悟りを開こうとしているときをさし、得難いよい時機という意味です。

大学生生活は、人生の中では社会に出て行く一歩手前に位置付けられます。大学または大学院を卒業すると多くの人が社会人としてスタートすることになります。社会からの呼び掛けに応えるわけです。皆さんが、社会人になろうと必死になる、社会も皆さんを受け入れるために準備を進める、就職活動は、そのような見方をすると「啖啄の機」という言葉がぴったりです。また就職活動に限らず大学生活では、今までの自分の殻を破ることが必要でもあり、自分の中でも湧きおこってくる欲求でもあると思います。ゼミで部活でアルバイトで、今の自分に満足せず新しい世界に進みたいと思った時、その場面、場が「啖啄の機」になり得ます。

キャリアサポートセンターでは、今の自分の殻を破りたい、と思っている皆さんのことを準備を整えて待っています。



### キャリアセミナー・ガイダンス

皆さんの学生生活も含めた、これから考えるキャリアガイダンスを初年次から行っています。「進路選択オリエンテーション」、世代を超えた交流と共に多様な視点からキャリアを考える「自分の未来を考えよう」などを開催しています。

### インターンシップ

インターンシップは企業や官公庁で就業体験できる制度です。企業による採用活動の開始時期が変更となりインターンシップへの参加はより重要になります。1年生から参加できるこの制度をより活用出来るようにビジネスコミュニケーション・マナー研修などを開催しています。

### 業界・職種研究、企業説明会

業界や職種などを理解するセミナーの開催に力を入れています。OB・OGによる企業説明会は直接先輩に質問できる機会です。公務員セミナーも開催し、幅広い選択肢のなかから、社会に求められ自分らしく働くことを考えるセミナーとして開催しています。

### 就職活動支援セミナー

就職活動を控える学生に対して、専門家を招き、就職活動に必要な知識やノウハウなどに関する様々な「就職活動支援セミナー」を開催します。実践的なセミナーとして他大学とコラボレーションした「合同グループディスカッション講座」を開催しています。

### OB・OGセミナー

本学部・研究科の卒業生・修了生に、ご自身の学生生活や進路決定から卒業後の様子まで体験を踏まえたお話をうかがいます。2014年度は「就職活動も大切だけど…今、外に飛び出そう」などを開催しました。

### 教員採用試験対策セミナーガイダンス

主に教員を目指す学生を対象に「論作文」「教育時事」「面接試験」などの対策セミナーをシリーズで開催するほか、教員採用試験合格者有志による座談会のサポートも行っています。また教員OBセミナーとして「教員採用試験実践対策講座」を開催しています。